



立て心よ 行け私よ

No. 9

文責: 齊藤 正一

第2回学校評価生徒アンケートの結果より

11月に、生徒のみなさんに回答してもらった、学校評価アンケートの集計結果をお知らせします。

前回同様に、アンケートで質問をした全22項目で肯定的評価(A:そう思う B:どちらかといえばそう思う)の割合が高くなりました。アンケートを行った項目全体をあわせると、肯定的評価は平均92.3%でした。7月の第1回アンケートよりも0.3%下がっていますが、それでも高い数値であり、引き続き、墨坂中学校の生徒のみなさんの多くが、充実した学校生活を送っている、学校生活に満足している、ということが言えます。

生徒のみなさんの回答の傾向を、これからの学校生活に活かせるよう、(1)学校生活全体(2)学習(3)生活や行動に分けて、詳しくみていきたいと思えます。

(1) 学校生活全体について

8項目中7項目で90%を超え、高い値です。

「②学校には相談できる友だちがいる」について、94.2%と高い水準(【評価指標(他者関係力)】90%)にあります。内訳を見ると1年生94.6%、2年生93.9%、3年生94.1%と、学年により差があります。2学年が少し低くなっているのはクラス替えの影響があるのかもしれませんが、数字的に見ると、友人関係が広がり、深まってくることがわかります。今後も感染症への対応に配慮しつつも、友と関わる活動を積極的に取り入れていこうと考えます。「⑧今年度の3学年の二人担任制や1,2学年のローテ担任制は良いと思う」については、91.3%と評価指標の90%を達成しました。今後も生徒一人一人の声に耳を傾け、多くの職員が二人担任やローテーション担任であることの利点を生かしつつ、真摯に対応していきたいと思えます。

一方で「①学校に来るのが楽しい」の項目が88.4%と【評価指標(自己更新力)90%】である90%にあと1.6%届きませんでした。特に肯定的評価がされなかった11.6%の生徒にしっかりと寄り添えるよう、生徒の皆さんの声に耳を傾け、生徒の皆さんがより学校に来たいと思えるような学校づくりへの改善に努めます。

(2) 学習について

8項目中5項目で90%を超えました。

「⑨授業では、先生の話や友だちの発表を聴くことができる。」99.5%と落ち着いた学習環境にあることが伺えます。「⑩授業の内容がわかる」では、【評価指標(他者関係力)】である90%を達成しました。引き続き、「墨坂授業の3『ある』」、具体としては「問いや願いがある授業」「友との対話がある授業」「振り返りがある授業」を軸に、生徒が自主・自発的に学習に取り組む授業の構築をしていきます。

一方で、「⑩授業では、質問したり意見を述べようと努力したりしている」が88.2%と【評価指標(問題解決力)90%】に届きませんでした。タブレット端末を活用しての共同追究や新学習指導要領に示された資質・能力育成に向けて「小グループでの協働的な学び」の学習場面が増しており、それらの場で生徒同士が意見を述べたり、質問し合ったりすることを毎時間の授業で引き続き大切にし、改善に努めます。

「⑬宿題以外に、予習や復習など自分で考えた学習を家でしている。」が70.7%となり【評価指標(自己更新力)】である75%に届きませんでした。内訳を見ると1年生70.9%、2年生66.7%、3年生74.1%と、学年毎に数つにばらつきがあります。3年生は受験シーズンに入ったからとも考えられますが、いずれも家庭での学習の充実が課題と言えます。フォーサイト手帳を活用した規則正しい生活習慣を基に、eライブラリ等の利活用の促

進などによる学習の充実等、自律的な学習へ向け、更に主体的な学習を後押ししていきます。

(3) 生活や行動について

6項目中5項目で90%以上を超え、落ち着いた生活を送っている様子が伺えます。

「㉔生徒会や学級の活動などは、互いに協力して行われている」では97.6%となり、【評価指標(他者関係力)】の95%を達成しています。「㉒力を込めて4回がけ」を意識して清掃に取り組んでいる。」は【評価指標(自己更新力)】である80%を達成しました。校舎への愛着や感謝等、発達段階に応じた心情面等から更なるアプローチの工夫(縦割り清掃実施等)を図ると同時に、本校の伝統として大事にしてきた力であり、他者関係力と自己更新力を高める大切な活動として、生徒会活動とも連携して、今後も力を入れていきたいと思ひます。

一方で「㉑「進んであいさつ」することを心がけている」では、93.9%と【評価指標(他者関係力)】である95%に届きませんでした。学校や家庭、地域でさわやかな挨拶が飛び交うよう、引き続き意識向上を図っていききたいと思ひます。

学校評価生徒アンケート結果(経年比較) (%表示)		R5年 11月			
		令和5年(2学期)		令和5年(1学期)	
項目	評価指標	A+B	C+D	A+B	C+D
1 学校生活全体について		生活全体			
①学校に来るのが楽しい。	90	88.4	11.6	89.2	10.8
②学校には相談できる友だちがいる。	90	94.2	5.8	93.0	7.0
③学校には、一人ひとりが大切にされている雰囲気がある。		92.9	7.1	92.6	7.4
④学校では、命の大切さや仲間の大切さについて教えてくれる。		98.4	1.6	98.7	1.3
⑤学校では、地震や火事、不審者への対応の仕方をきちんと教えてくれる。		98.2	1.8	96.9	3.1
⑥学校では、自分の生き方や将来の進路について考えたり情報を得たりする機会がある。		94.5	5.5	95.1	4.9
⑦学校の施設は整備されていて、気持ちよく使える。		96.6	3.4	95.3	4.7
⑧今年度の3学年の二人担任制や1, 2学年のローテ担任制はよいと思う。	90	91.3	8.7	89.7	10.3
2 学習について		学習			
⑨授業では、先生の話や友だちの発表を聴くことができる。		99.5	0.5	98.7	1.3
⑩授業では、質問したり意見を述べようと努力している。	90	88.2	11.8	97.8	2.2
⑪授業では、大切と思われることはメモをとっている。		92.6	7.4	92.6	7.4
⑫教科の課題や提出ノートはきちんと出している。		84.2	15.8	82.1	17.9
⑬宿題以外に、予習や復習など自分で考えた学習を家でしている。	75	70.7	29.3	75.8	24.2
⑭先生は、一人ひとりが学習内容を身に付けられるよう工夫して学習を進めてくれる。		95.3	4.7	94.2	5.8
⑮授業の進む速さはちょうどよい。		91.6	8.4	89.5	10.5
⑯授業の内容がわかる。	90	90.5	9.5	89.9	10.1
3 生活や行動について		生活や行動			
⑰「進んであいさつ」することを心がけている。	95	93.9	6.1	95.7	4.3
⑱「力を込めて4回がけ」を意識して清掃に取り組んでいる。	80	84.7	15.3	77.1	22.9
⑲身支度を整え、無言清掃ができています。		93.7	6.3	92.4	7.6
㉔生徒会や学級の活動などは、互いに協力して行われている。	95	97.6	2.4	98.7	1.3
㉑多くの仲間は、集団生活のマナーやルールを守って生活している。		95.8	4.2	95.5	4.5
㉒キャンプや修学旅行、文化祭などの行事は楽しみである。		95.8	4.2	94.8	5.2
学校生活全体について		94.3	5.7	93.8	6.2
学習について		89.1	10.9	90.1	9.9
生活や活動について		93.6	6.4	92.4	7.6
項目全体		92.3	7.7	92.1	7.9

この生徒アンケートの結果も参考に、学校評価保護者アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。回答期間は12月8日(金)までです。詳しくは、11月24日送信のオクレンジャーでご確認ください。

全国学力・学習状況調査の結果の分析と考察について

4月に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、本校3学年生徒の傾向と、それを受けての改善の方向をお知らせします。この調査でわかるのは学力の一部分ではありますが、調査結果の分析に基づいた本校生徒の学力の傾向をつかみ、日々の教育活動や今後の具体的な取り組みについて検討して、改善に役立てたいと考えております。

全体としては、国語・数学・英語ともに、平均正答率が、全国平均とほぼ同じという結果となっています。墨坂中学校のグランドデザインでお示した【評価指標】「正答率全国比-3%以内」を達成することができました。以下、各教科における成果と課題、今後の対策、生徒質問用紙から見える本校生徒の学習の傾向について掲載いたします。ご家庭でも、参考にいただけますと幸いです。

教科に関する調査結果の概要

調査内容	教科別 平均正答率	考察及び対策
国語	全国平均とほぼ同じ	<p>◆知識・技能については、ほぼ全国と同じ正答率でしたが、漢字を書く問題(おし量る→推し量る)、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題(いひける→いいける)、語句の意味の選択問題(「落胆する」の意味)では、全国平均を大きく上回りました。知識・技能については、ある程度の力が着いてきています。授業導入時に行っている漢字のドリル的な学習を継続するとともに、漢字だけでなく、語句や文法等についても扱いながら、さらに知識・技能の定着に努めてまいります。</p> <p>◆思考・判断・表現については、全国平均よりもやや下回る正答率となりました。領域別では、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」は、全国平均とほぼ同じなのに対して、「書くこと」は全国平均を下回っています。今後、授業の中で、3領域の学習を関連づけて行いながら、特に「書くこと」については、授業だけでなく、家庭学習の中にも位置づけ、書く機会を増やしていきます。また、その際には、条件や意図を明確にした学習にし、書いたものについて相互評価や自己評価を行うことで、成果と課題が次の「書くこと」にも活きるようにします。</p> <p>◆週末の課題については、1～3年生まで新聞のコラムを読んで問題に答えたり、自分の考えを200字程度でまとめたりする学習を継続することで、「読むこと」や「書くこと」の力を伸ばしていきます。</p>

調査内容	教科別 平均正答率	考察及び対策
数学	全国平均とほぼ同じ	<p>◆平均正答率は県平均および全国平均との差を縮め、ほぼ同じ程度でした。差を縮めることができた要因としては、1時間の授業で「学習問題」「学習課題」「まとめ・振り返り」の流れを大切にできたことがあげられます。基礎的・基本的内容に関する知識技能に関しては未だ課題は残りますが、練習問題の時間を確保してきたことで学力向上につながってきています。</p> <p>◆課題①基礎・基本の知識・技能の確実な定着をはかること $2 \div 12(x/4 + y/6)$ のような基礎・基本の知識・技能に関する問題で、正答率が低くなりました。知識・技能の確実な定着をはかるには、e-ライブラリー等の</p>

		<p>ICT を用いたり、プリントを用いたりしてドリル学習を行うこと、1時間の授業で定着（練習問題を解く）の時間を確保すること等の対策が考えられます。</p> <p>◆課題②説明する力を高めること</p> <p>6(2)「はじめの数にかけると2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する」のような、説明する問題で正答率が低くなりました。日頃の授業からペアやグループ学習を取り入れ、伝え合う時間を設定していきま。短時間でも継続的に行っていくことで、説明する習慣を身につけたり、抵抗感なく説明し合う活動ができるようにしたりしていくことが必要であると考えます。</p> <p>◆③事象の反例を正しくとらえること</p> <p>9(2)「二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く」</p> <p>という設問で正答率が県平均や全国平均を大きく下回りました。これは、事象の成り立たない事柄を正しく答えられていないこととなります。日頃の授業で正しいことばかりではなく正しくない理由を考えさせたり、事象を批判的にとらえたりしながら、正しい判断ができる学習活動もときには必要だと考えます。</p>
--	--	---

調査内容	教科別 平均正答率	考察及び対策
英語	全国平均とほぼ同じ	<p>◆聞くことに関しては小学校から耳で慣れ親しんできた成果が出ていると考えます。中学校だけでなく小学校、幼稚園と早い段階から耳からの英語の情報に慣れているからであると思われます。中学校でも英語での指示や話すこと、聞くことに焦点を当てた活動に力を入れていきたいです。(入試問題だけでなく、TEDなどのビデオ教材の活用を検討します)</p> <p>◆読むこと、書くことに関しては、全国や県の平均に届かない部分もありました。教科書だけを読む媒体とするのではなく、洋書(ラダースリーズやペンギンリーダーズ)、絵本など教科書以外の読み物媒体を増やす必要があります。読み物の選択肢を増やすことが生徒にとって「読みたい」という気持ちを生むことに繋がると考えます。</p> <p>◆書くことに関しては、全国平均との差が大きくなりました。このことは、解答形式で、選択式はできても、短答式や記述式になると苦戦することにもつながっていると思われます。単語やイディオムの意味を提出ノートで練習して覚えても、どう使うかまでは定着していません。思考と工夫が伴う内容で、たとえノート半分でも、「毎日意味や表現を考えながら工夫して書く」習慣をつけていきたいです。また、聞いて分かったことを書く、読んで考えたことを書く、書いて話したことを聞くといったように、各分野を関連させながら、日々の授業や課題に取り組みせていきます。</p>

学習状況調査の結果については次号掲載します。